

致木ともなり、また鶏の運動場の日蔭樹としてよく、その生葉は鶏の啄食に好適し、かつ乾燥せるものを冬期間湯に浸して給与すると立派な緑餌となり利用価値が高い。とくに卵黄の色を濃厚にし、蛋白含量も高いので、養鶏飼料に配合することも望ましい。この種も開花することが稀であるか



英國トゲナシニセアカシヤ (砧苗畑 1952. 10. 4)

ら、無性繁殖で苗木をつくる。最近、海岸の砂防用として広く要求され、また空地利用や牧野の草生改良用として本種は最も高く評価されている。
イタチ萩については本誌九月号で発表したので省略するが、わが国の牧野探草地面積は統計上大面積をなしているが、その大

部分はいわゆる老朽牧野とか荒廢牧野で、急速に改良するには、障害物となつてゐる藪を除去し、土地を耕起し、たくさんの堆肥や石灰を施して土地を肥し、牧草を播けばよいのであるが、畑地の改良もできないで、牧野に堆肥や石灰を入れる余力なく、放置されているのが現実の姿である。かうなところに飼肥料木を植栽して、空中窒素を固定せしめ、自然に土地を肥すことが最も賢明である。その他、既耕地で土壤流亡のはなはだしい地帯では、等高線状にこれら飼肥料木を列状に植付けて、直接土壤流亡を防ぐとともに、漸次その列間に草生栽培を行つて有畜農業を営むことも必要であろう。

なお各地の火山灰地などの緑化、地力増進に今後これら肥料木と各種牧草の混植を研究採用して、食料増産の実を挙げたいものである。

飼料木は

雲印種苗木

青島系とげなしあかしや 十本 百五十圓
英國系とげなしあかしや 十本 三百五十圓

いちぢ萩

一年生 百本 二百圓
二年生 百本 四百圓

大量御入用の方は極力勉強いたします。お問合わせ下さい。果樹苗木類の御注文もただいま申受け中です。大量御入用の方は卸価格で差上げます。お問合わせ下さい。
苗木類の発送は十月下旬

球根ベコニアの栽培

石田文三郎

球根ベコニアは夏咲草花として最も歡迎せらるる球根植物であつて、今から八十数年前英國の園芸家ピアス氏によつて南米アンデス山の高峰一万三千尺の谷間より自生種の発見を見て、それにいろいろの種類を交配して新種を作り、一千八百六十九年に英國の新種植物展覧会にベコニアセデニと称して出陳、銀牌を受領したが今日

の發達の元である。爾來幾多の園芸家が交配種を作り出し、その変化に富んでいることは驚くべきものがある。花の色には白、淡紅、深紅、黄、薄黄、橙黄色等、咲き方においても単弁、複弁、棒咲、薔薇咲等があつて、開花期間も永く、夏咲草花として実に美しいものである。

この球根ベコニアは、今まで日本では英、米、兩國から輸入栽培されたのであるが、北海道で栽培の結果、本道の氣候風土に適し、發育もよく、わざわざ外国より輸入するより、むしろ北海道において栽培し、本州方面及び外国にまで輸出するようになつたなら外貨獲得の一助にもなるので、その

栽培法を記することにする。

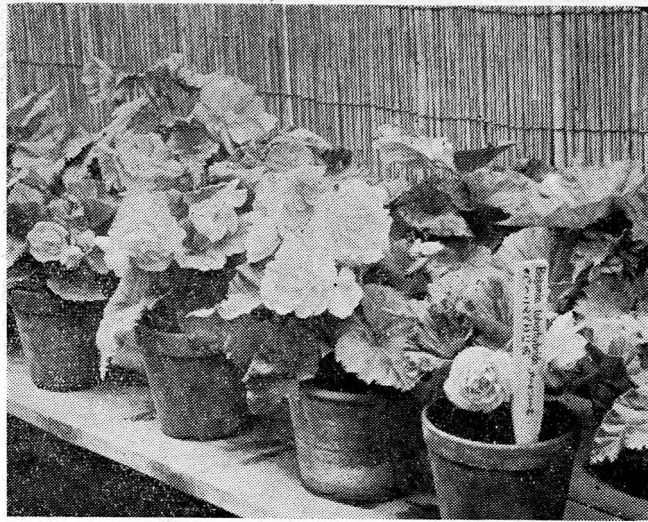
栽培法

球根ベコニアは普通のベコニアと同じように秋海棠科に属する球根植物で、春四月下旬ころ球根を鉢に植えると、七月ころから霜の降るころまで次から次へと花が咲いて、栽培も比較的容易のものであるが、これを繁殖するには多くの場合、種子を播いて繁殖しなければならぬ。

種子の播き方

東京方面では温室を使用して栽培するのが普通であるが、北海道では温室が無くとも温床があれば、これに種子を播いた箱を入れれば育成させることができる。この温床は普通の野菜などの苗を作る温床と同じで、春四月下旬ころ用意して、別に蜜柑箱を半分に取り、底に小さい穴を二、三個明け、その中に落葉の腐つたものや、普通苗床に用いる培養土を二分目の篩で通し、さらにその中に川砂を一割くらい混ぜ合わせ、その中にこの箱の中に三寸ぐらいの厚さに入れ、平にならしたところに種子を播くこ

となるが、ペコニアの種子は非常に細かくなかなか播きにくいものであるから、種子の中に川砂を少々入れて混ぜたものを砂とともにその箱の中にまんべんなく播き、終つたならその上に土をかけず、ただ種子を播いた表面だけを小さい平らな板で軽く



押しつけるだけに止め、灌水することになるが、如露で水をかけると種子が細かいので飛び出すことがあるので、鹽に水を入れて、その中にペコニアを播いた箱をそのまま入れて、約三十分も置くと、箱の底の穴のところから漸次水分を吸収して、土の表面もぬれてくる。その時、鹽から取り出して温

床の中に入れて、種子を播いた箱の上に板硝子を一枚かけて、温床の中の温度は華氏の七十五度くらいにして置けば、三週間乃至一カ月ぐらいで発芽してくる。この際、あとの灌水は細目の如露で軽く毎日一回行う。

移植

ペコニアの葉が豆粒大になつた時、別に箱を用意して、その中に種を播いた時と同じような培養土を入れ、これにペコニアの苗を一寸おきに一本ぐらゐの割合で箸で移植し、灌水して再度温床の中に入れて培養する。苗が一寸ぐらゐに成長した時に、その箱から取り出し、今まで用いた温床か、または半日陰になるような地面を選び、三尺に長さ六尺、高さ七、八寸の板で囲い、その中に培養土を入れ、ここに五寸おきに一本ぐらゐの割合で植込み、十分灌水し、その後は雑草を取り除けば発育して来

追肥

球根ペコニアは幼苗当時は高温度が必要で、なかなか発育が遅いが、床に定植後はあまり温度の高いよりむしろ幾分低目の方が発育がよいようである。葉が四、五枚出たころから追肥が必要であるが、この追肥

は魚粕の腐つたもの(魚粕一升に水五升を入れ、あらかじめ腐らしたものを、使用の際五倍にうすめて用いる)を二週間に一度ぐらゐの割合で施すと、八月下旬ころから、早い株は咲き初める。

用に供することができる。球根の直径五分以下のものは、更に一年、床で培養すれば二年目に全部販売用に供することができる。

球根の掘り取り貯蔵
秋の十月前後に至ると各株とも盛に成長して開花し初めるが、ペコニアは寒さに弱

種子の採り方
球根ペコニアは八重咲も一重咲も一つの株から雄花、雌花と開花するものであるから、晴天の日に乾いた細筆で、雄花の花粉



いもので、霜にあると一度に莖葉又は球根まで枯死することがあるから、霜の降らぬ前に十月十日ころまでには掘り取つて、莖は球根の元から鋏で切り取り、大、小の球根を選り分け、乾いた川砂を入れた箱の中に入れて、冬の間凍らぬような室か、又は温室に貯蔵する。春三、四月ころ箱から取り出して、球根の直径五分以上のものは販売

を雌花の柱頭に軽く着けてやるが必要で、これを二、三回実施すれば受精して、四十日ぐらゐで実が成熟する。実が褐色になつたとき採取して袋に入れ乾して貯蔵する。

(筆者は北海道大学助教授・附属植物園主任)